



総合型地域スポーツクラブ 公式メールマガジン

このメールマガジンはスポーツ振興くじ助成金を受けて配信しています。
スポーツ振興くじについてはこちらから

[日本スポーツ振興センターHP] <http://www.jpnsport.go.jp/>

スポーツクラブ  

スポーツ振興くじ助成事業

特集 座談会

▶▶▶ 第1世代・第2世代が考える総合型クラブの未来
～人材確保・育成を中心に～

特別企画 学校運動部活動と連携するクラブ

▶▶▶ NPO法人なんでもエンジョイ面瀬クラブ
▶▶▶ DREAM火流

連載 みんなで盛り上げよう！オリンピック・ムーブメント

▶▶▶ 岩手県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会
▶▶▶ NPO法人スポーツアカデミー

▶▶▶ 助成金情報 ▶▶▶ 詳細

▶▶▶ お知らせ ▶▶▶ 詳細

▶▶▶ バックナンバー ▶▶▶ 詳細



公益財団法人

日本スポーツ協会

特集

座談会

第1世代・第2世代が考える総合型クラブの未来 ～人材確保・育成を中心に～

持続可能な総合型クラブの運営には、効果的な事業計画を企画・立案できる人材が求められるとともに、常に次世代の育成を念頭に新しい人材を積極的に受け入れ、世代交代を図りながらクラブ運営に取り組むことが重要です。

そこで今回は、総合型クラブの現場で活躍されている第1世代・第2世代の方々に、総合型クラブの人材確保・育成を取り巻く現状・課題を中心にお話いただきました。



【第1世代】

関口 昌和 氏 (よろずや広島北 ゼネラルマネジャー/写真中央)

【第2世代】

増田 康太 氏 (NPO法人 クラブしっキーず クラブマネジャー/写真左)

森田 弘美 氏 (一般社団法人 N-link. 代表理事/写真右)



1 クラブに携わった経緯について

増田(敬称略) 小学校4、5年生の頃からしきいず(クラブ)のクラブ会員で、それから約20年たってクラブマネジャーという立場で現在関わっています。前任のクラブマネジャーが退職されたことが、クラブマネジャーとなったきっかけではありますが、最初は熱い思いがあったわけではなく、クラブに長く関わってきたこともあり、何となくお手伝い的な感覚で始めたと記憶しています。ただ、今は、地域にとって、子どもたちにとって、クラブが必要だという思いがあり、「クラブとして未来に何を残していくか」と考えるような心境に変わっています。

森田(敬称略) クラブ設立翌年の平成24年度から関わっています。元々、スポーツ少年団でバレーボールの指導者として活動していたところ、クラブからお声掛けいただき、運営委員兼指導者としてクラブに携わるようになりました。クラブ設立当時は、教育委員会の主導でクラブが立ち上がったこともあり、運営委員の人数が多かったことから、委員間や教育委員会との調整が大変であり、本来行うべきクラブ活動も効率よく行えないような状況でした。そんなとき、クラブマネジャーが辞め、運営委員も総入れ替えとなり、結果的に私が代表となりました。私が代表になってからは、クラブの規模を縮小して、本当にクラブに携わりたい人だけを集め、地域にあった地域のためのクラブづくりを始めました。

関口(敬称略) 広島県で平成15年3月に設立した「どんぐりクラブ屋台村」が最初に関わったクラブです。今回の座談会のテーマでもある「人」という点で話すと、このクラブを作ったとき、「10年経ったら、役員を全員入れ替えよう」という話をしました。その理由は、役員が変わっていない組織は、発展していないように見えたからです。また、私が地元の間人ではないからこそ、そこまで強く言えたと思っています。地元の間人だけがクラブに関わっていると、ある意味、人間関係が既にでき上がっていることや、固定観念に囚われてしまうことが考えられ、クラブがなかなか発展していかないようリスクもあると思います。同じように、スポーツに関わっている人間だけで運営していくのも良くないと思います。スポーツだけを中心に物事を考えてしまう可能性があるからです。当時、設立準備中に、ある方に「スポーツする人って少ないんだよ」と言われ、ドキッとしたことがあります。このような経緯もあり、理念としては、「総合型地域スポーツクラブ」ですが、クラブ名には、あえて「スポーツ」という言葉を入れず、スポーツをやらない人も関わりやすいようなクラブを目指し、スポーツ以外の様々な活動も行うこととしました。



2 人材確保のポイントとは？

増田氏 将来クラブに関わる「子どもたち」の主体性と多様性を育成する

森田氏 主婦のアンテナを活用し情報収集

関口氏 クラブ側の視点を少し変えることで人材確保の幅を広げる

増田 「クラブは、楽しいところ」という認識を持ってもらうことが必要だと思います。特に子どもの場合、将来的にクラブに帰ってきてもらうためには、前述の認識を持ってもらうことと併せて、主体性を持てるような育成が必要だと思います。今、しっくいずでは、子ども対象のプログラムで、子どもたち自らが、「こういうことをやりたい！」と考えるような仕掛けづくりをしています。子どもたちが考えたアイデアは、突拍子もなく、時間もお金も手間もかかる内容が多いです。しかし、そのアイデアを「できない」で終わらせるのではなく、「どうやったらできるのか」という投げかけをすることで、子どもたちが主体性を持ち、またより良いアイデアがでてくるようになります。このような主体性を持てるような仕掛けづくりをすることで、子どもたちの成長を長い目で追うことができるとともに、クラブの活動に自然と関わっていただけるような環境を大切にしています。

また、将来、子どもたちが、スポーツを指導できる人として帰ってくるのではなく、障がい者や認知症の方々等に対し、特別視することなく、地域には多様性があるという認識を当たり前のようになっていることが理想だと考えます。そのためにも、小学生のうちに、様々な多様性に関わる経験ができるようなアプローチが重要なのではないかと思います。

森田 地域の中で、誰か関わってくれる人がいないか、常にアンテナを張っています。その中で、最も着目しているのが主婦の方々です。主婦のネットワークは半端ないです(笑)。例えば、同じ主婦の中にアーティストの方がいるという情報を得ると、「ああこの人いいな」って感じで目をつけています。また、主婦の方々は、子どもの面や家庭の面等、様々なジャンルで地域と密接しているため、面白いアイデアをたくさん出してくれます。他にも、企画の実行にあたり、全員が大した打ち合わせもなく完璧に準備してくれるような、きめ細かさも持っています。また、主婦だどご主人がしっかりした仕事をなさっている場合、歩合制で謝金を払うことができるので、クラブの財政面においても、非常に助かります。



ただし、人材確保のために、主婦の方々、誰でもお声掛けするというわけではありません。私のクラブでは、「年配の方に優しい」、「子どもを大事にする」、「姑さんと仲が良い」この3つをクリアする人が合格です。ですので、ある意味、いい人しかいないですね。

関口 人材確保のためには、ネットワークを広げることが重要です。核となる人、1人のアンテナだけだと、どうしても物理的に優秀な人材を確保することは困難です。今は、「みんなでクラブを支える」というシステムが必要になってきていると思います。周りの人たちのネットワークを活用して、上手く機能させることで、人が人を呼び、街づくりになっていく—この街づくりという部分において総合型クラブが使命を果たしていくような

時代になるのではないのでしょうか。また、多様な社会的背景を持つ方々に目を向けるのも人材確保の幅を広げると考えています。実際に私のクラブであったのですが、私の教え子の20代の女の子が広島に帰ってきたという情報を得たので、クラブに関わらないかと打診しました。すると、彼女は「私はクラブに関係ないし、地域に興味がない」と素っ気なく言いました。私は、その時、「クラブにも、地域にも興味がない人こそ、クラブの地域課題を解決するためにはクラブに必要なのではないか」と思い、再度打診しました。結果、彼女はクラブの運営にはまり、クラブの活動にとっても貢献しました。このように、クラブ側の視点を少し変えることも、人材確保のポイントとなるのではないかと思います。

増田 関口さんがおっしゃった、「みんなでクラブを支える」という考えは、共感できます。私のクラブでは、有償かつ専任のスタッフは私だけです。他の若手のメンバー(スタッフ)は、それぞれ仕事を持っていて、アフター5や土日の時間帯にクラブに携わっています。そのため、クラブに携わる全員がクラブマネジャーとしてクラブを引っ張っていくようなやり方が、これからの時代には合っているのではないのでしょうか。

関口 人材に困っているクラブは多いですよ。次世代を担う人材がなかなかいないと思っていましたけど、お二人の話を聞くと、人材は結構いるんですね。人材に困っているクラブは、地域のネットワークが上手く機能していないことが原因だと思います。増田さんがおっしゃるように、本業があっても、できる範囲でクラブに携わっていただくことが大切です。また、田舎は特に、消防団、伝統芸能、地域の事業や催し物等に深く携わっている方も多いと思うので、そのような時間的制約から、クラブに携わることが難しい人もいるのではないのでしょうか。



増田 「できる範囲で」というのと併せて、クラブの活動から仮に離れて行ったとしても、また戻ってこられるような雰囲気づくりは大切にしています。結婚や出産、転職等、クラブを離れる機会は誰にでも訪れることだと思います。そのため、「いつでも戻って来ていい」という雰囲気づくりは、ある意味、永続的な人材確保のポイントとなるかと思っています。

3 人材確保のためにクラブの魅力をどう伝えるか

森田氏 クラブの現場を見て何か感じ取ってほしい

増田氏 クラブは、その人の居場所づくりでもある

関口氏 肝心なのは個人の「出番と居場所」の確保

森田 特に、若い人にクラブに関わってもらうためには、クラブの活動を見てもらうのが一番です。クラブの活動を一緒に体験してもらい、どう感じてもらえるかが大事な部分かなと思っています。クラブが求める人材は、運営、子どもの指導、高齢者の指導等といったように様々です。指導者資格に限らず、その人の適正を見極め、その人に合った役割があれば、携わっていただくようにしています。また、資格は持っているけれど、活動する場がない人がいます。沼田町は人口約3700人の町ですが、看護婦、栄養士、保育士、役場を辞めた保健士等がかなりいらっしゃいます。そのため、先ほどの主婦のネットワークを使い、活動意欲がある方々を見つけ、声をかけるようにしています。地域には、意外と多くの資格保有者がいるのです。



増田 私は現在、理学療法士の資格を取得するため、専門学校に通っています。私の通う専門学校には、埼玉県外から来た関東近県や東北地方出身のクラスメイトがいます。そのクラスメイトを、しききずの夏のキャンプのプログラムに誘いました。そこで、川への飛び込み大会を実施したのですが、アメフトをやっていた身体の大きい学生

が飛び込むと、すごい水しぶきが上がります。それを見た子どもから歓声があがると、参加したクラスメイトも嬉しい気持ちになります。県外出身の若者が、クラブのプログラムに参加することで、今までとは違った友達や顔見知りが増えていきます。そんな居場所づくりとしてもクラブの存在は貴重だなと感じています。まずは楽しいことを経験していただいて、「しききずに行って楽しかった」、「もう一回行きたい」というふうに思っていたく事が、一番なのかなと思います。



関口 森田さんのところに人がたくさん集まるのは、『出番』と『居場所』をつくっているからだと思います。主婦の方々は、家の中に限った『出番』と『居場所』はたくさんあると思いますが、社会に出たときの『出番』と『居場所』は、中々見つけれられないのではないのでしょうか。おそらく森田さんが、主婦の方々に対し、「あなたはこれね」、「あなたしかできないからね」と言っているのでしょう。「あなただからお願いしてる」と言っ、て、『出番』をつくれれば、その人の『居場所』ができる。クラブに携わるみなさんの『出番』と『居場所』をつくるのが、人材確保のポイントでもあり、クラブの魅力になると思います。『出番』と『居場所』さえあれば、その人は輝きます。

森田 クラブには、保育園児から高齢者まで会員がいるので、そこで元気な大人を見せることが一つの魅力になると思います。子どもたちから「森田さんみたいな仕事したいな」と言われたことがあります。そんなとき、普通に元気な大人を見せることだけで、魅力になっているのだと感じますね。また、時々他のクラブの若い子がクラブに来て何泊かするんですが、悩み相談とか受けますね。「クラブは何でもできる場所だし、これから好きなことができるよ。今辞めることはないよ。辞めるのは簡単だから、この先も是非続けて面白いこととしてごらん」なんて言ってます。悩み相談が魅力かどうかは分かりませんが、多種多様な方々と気軽に交流できるようなクラブ間同士のネットワークは、若手にとっては魅力となるのではないのでしょうか。



関口 現実的には、人材確保のためには、財源の確保が必要だと思います。会費は安定財源です。しっかりとしたプログラムを行い、それに見合った対価をもらうという基本的方針が、これからはもっと必要になってくると思います。少子高齢化等の影響により、行政も財源が減っていくことで、意図した事業ができなくなることが考えられます。財源の確保と併せて、最近のクラブは、地方の規模の小さいクラブと、人材を多く必要とするような規模の大きいクラブという二極化の傾向になっているのではないかと思います。どちらを選択するかというわけではありませんが、クラブの方向性はしっかりと定める必要があります。中途半端に色々な事業に手を出してしまうと、クラブの規模を大きくしたいのか、現状維持か等、方向性がぶれてしまうと思います。そのような状況だと、どういう人材を求めているのかも分からなくなってしまいます。クラブのミッションとビジョンをしっかり持つことが何より大事だと思います。



4 クラブが必要とする人物像とは

森田氏 資格よりも人柄・性格が大事

増田氏 分け隔てなく愛情を注げる人

関口氏 真面目で嘘をつかない人

適切な人材教育ができる人こそクラブマネジャー

森田 資格が有るか無いかは、クラブの会員からそこまで求められていません。知識・技術が有る方が間違いなくありがたいのですが、コミュニケーション能力が低ければ、参加者の満足度は低くなります。たとえ、資格が無くても明るく元気で、参加者を大事にする人の方がいいですね。参加者は、楽しい場所、魅力的な人に集まると思います。

増田 クラブ代表でもある母には、「全ての人に分け隔てなく愛情を持って接する。そこを大切にしたいよね」と、よく話し合います。私は、多様な方々を受け入れる、いわゆる差別をしないことにすごく時間を割いてきました。日常的な業務に追われている中で一番大切なのは、クラブに来てる目の前の人にちゃんと時間をかけること、尽くすことなのではないかと思っています。それができているのは、自分が日常的にいろんな人たちから愛情を受けているからです。だからこそ自分も変わることができました。分け隔てなく愛情を注げる人。そんな人を求めますね。

関口 真面目で嘘をつかない人ですね。魅力的な指導者に人が来るという話がありましたが、魅力のある指導者は、自分に魅力があると思ってしまうがちです。民間企業だったら、自分の魅力をどんどん出して「私についてきて。私が一番。」という意識で良いと思うのですが、クラブでは違うと思います。一番大事にしなければならないのは、会員さんです。会員のみなさんに対して、誰がやっても同じような指導をしなければいけないと思うのです。



指導者に対してそのような意識付けを教育するのが、クラブマネジャーだと思います。また、「私がいるからこのクラブは大丈夫」であったり、「私がいるからこれができるんだ」というような意識の指導者やクラブマネジャーは、求めないですね。



5

世代交代を目指した 第1世代×第2世代融合のポイントは？

増田氏 クラブマネジャーの仕事は、人の流れをマネジメントすること

森田氏 頼りになる大先輩との関わりを大切に

関口氏 人材の固定化は、クラブの存続に関わってくる

増田 今は、20代の私がクラブマネジャーとして中心となっておりますが、これから若手がクラブに携わってきたときに、若手の考えやアイデアを参加者やクラブメンバーが否定しないような雰囲気づくりを大切にしています。前述した子どもの主体性の育成と同様に、トライ&エラーのように、とりあえず、やってみよう！という雰囲気づくりが大切なのかなと思います。クラブマネジャーの役割というと、クラブ運営に必要な財源確保や事業計画作成等が中心として考えられていると思いますが、本来クラブマネジャーがやることは、人のマネジメントであり、人の流れをきちんとつくっていくことではないでしょうか。

森田 SC北海道ネット(北海道の総合型地域スポーツクラブ連絡協議会)は大変ありがたい場です。第1世代の先輩たちが意見を言ってくれたり、クラブの事例を発表する機会もあり、自身のクラブを見つめなおす場にもなっています。SC北海道ネットには、第1世代、第2世代、クラブアドバイザー、大学生等、色々な方々が集まります。その中で、様々な意見をいただくことで、融合のポイントを探っています。

関口 第1世代の方々の中には、役職=名誉職という意識を持つ方もいると思います。特に、スポーツの性質上、名誉職という意識に陥りやすい。そのような方が、ずっとクラブに居続けると、クラブは発展しないと思います。結果的に、人的・財政面での課題が露呈し、クラブ運営が滞ってしまい、クラブの核となる事業すらもなくなってしまう事態となります。そのような事態になる前に、前述した『出番』と『居場所』を、クラブ内で整理することが大切だと思います。



6 クラブに携わっている 第1世代、第2世代に伝えたいこと

関口氏 第2世代は、新しいことにチャレンジしてほしい

増田氏 第1世代の経験を伝承した上で新陳代謝を

森田氏 第1世代の知識を生かしつつ地域を育てたい

関口 私も当時は、第1世代の方々に好きにやりなさいと言われました。40代前半に広島県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の代表委員にもなりました。周りの先輩方が「若い人を出さなきゃだめだね」ということで選任されましたが、やはり第1世代の方々が、第2世代の考えや行動を尊重することが大切ですね。私は第2世代かもしれませんが(笑)、ぜひ若手の方々に、どんどん新しいことをやってほしいですね。

増田 今までいた第1世代の方々がクラブを去っていく中で、若い人がどんどん入ってくれば世代交代かという、そうではないと思います。戦後の復興をしてきた第1世代の方々の人生の経験とかノウハウを、第2世代の若手がしっかりと伝承した上で世代交代する必要があると思います。

森田 地域を大事にしないといけないなと思います。地域のことを知らない人は、地域をうまく回せません。地域愛の強い人が結局クラブに携わっていると思います。その方々のネットワークを生かし、地域には人材が溢れていることを、しっかり理解した上で、地域を育てていけたらなと思っています。



増田 康太氏

小・中学校時代をクラブ子ども会員として過ごし、成人後、地元の志木に戻る。現在はクラブマネージャーとして、“かつての子ども会員”や同級生に積極的な声かけをし、クラブの企画・運営に若い世代が関わりはじめている。将来は、「クラブマネージャー×理学療法士=パラレルキャリア」の確立を目標としており、専門学校(理学療法学科・夜間課程)に通いながら、『スポーツと福祉の融合』をテーマに、日々活動している。

関口 昌和氏

平成3年日本体育大学卒業後一般企業に就職。その後広島県旧豊平中学校で保健体育教員として赴任。平成8年旧豊平町教育委員会体育主事となり、平成12年総合型地域スポーツクラブと出会い、4つの総合型地域スポーツクラブ設立に係る。広島経済大学、広島市立大学の非常勤講師として総合型地域スポーツクラブとは何かを学生にも伝えている。

森田 弘美氏

小学生からバレーボールを始め、高校卒業後は東北パイオニアで実業団選手として活動。引退後、地元に戻り、総合型地域スポーツクラブに携わるようになる。クラブ運営にあたっては、地元の人を大切にしながら、地域の人と人をつなぐ安心できるクラブ運営とともに、子どもたちがたくさんの経験を通し、地元に戻ってきたくなるようなクラブを目指している。



特別企画

学校運動部活動と連携するクラブ

NPO法人 なんでもエンジョイ面瀬クラブ 〈宮城県気仙沼市〉

中学校運動部活動を巡っては、少子化による生徒の減少、それに伴う教員数の減少、専門的指導力を持つ教員の不足等により生徒のニーズに応じた部活動自体が成り立たなくなる現状があります。

このような中、平成30年3月にスポーツ庁において「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」が策定され、ガイドラインの中で総合型クラブと中学校運動部活動の連携が期待されています。

そこで、今回は、学校運動部活動と連携するクラブの取組を紹介します。

1 クラブ概要

中学校運動部活動との連携の経緯／クラブ設立との関係性

なんでもエンジョイ面瀬クラブの設立母体である面瀬地区体育振興会は、昭和59年に誕生した面瀬学区の公民館事業、社会体育事業の推進のために昭和60年に発足しました。発足後、地域の公民館を中心とした地道な社会体育活動を続けてきましたが、「活動のマンネリ化」「子供たちの運動活動支援の行き詰まり」等、いくつかの問題点が見えてきました。そこで、当時の面瀬地区体育振興会会長は、問題点解決のきっかけとして、発足してから15周年にあたる平成11年に、子どもから高齢者までを参加対象とするウォーキングイベントを開催しました。このイベントは200名以上の参加がある大盛況イベントとなりました。また「面瀬ふれあい交流会」と称する中学校との交流イベントも開催しました。このイベントは後に発足される「面瀬中学校部活動連絡協議会」のベースとなる活動となります。

そのような活動を行う中で、地域の課題解決のためのアプローチも考えました。その一環で、総合型地域スポーツクラブの存在を知り、先進事例であった愛知県半田市の成岩スポーツクラブの取組について学び、総合型地域スポーツクラブであれば、体育振興会ではできなかった社会体育の範疇を超えた活動、つまり、小中学校との連携を図り、学校任せでなく、地域一体で子どもたちを教育／育成する活動ができるのではないかと思うようになりました。



一方で、面瀬地区の面瀬中学校の部活動においては、「生徒数／職員数の減少に伴う部活動廃止」「部活動指導を行う教員減少」「競技レベルの低下」などのいくつかの問題点が発生していました。当時の面瀬中学校の先生(地区中体連事務局運営の担当)は、ウォーキングイベントや「面瀬ふれあい交流会」を主催した面瀬地区体育振興会に注目し、面瀬地区体育振興会となら、連携して部活動の問題解決ができるのではないかと、との思いに至りました。

くしくも、面瀬地区体育振興会と面瀬中学校は、お互いが“連携したい”との思いで合致し、連携に向けて、協議を開始することになりました。平成12年から総合型地域スポーツクラブの活動も見据えた具体的な協議を行い、事例発表や案を出し合うなどの話し合いを重ね、平成13年6月に「面瀬中学校部活動連絡協議会」を発足させました。「面瀬中学校部活動連絡協議会」の支援内容／支援方針は以下になります。

支援内容: 面瀬中学校の部活動に、外部指導者を派遣し、実技の指導を行う。

支援方針: ①学校からの要請があった場合にのみ、指導者を派遣する。

②部活動は教育の一環なので、指導者は部活動顧問教員の指示の元で指導を行う。

発足時には、地元の新聞にも「地域住民がスポーツを通じて教育現場と一体となって、地域教育力を活性化するもの」と掲載されました。同時に「この取り組みは、今後ほかの地域でも避けては通れない課題」とも掲載されており、昨今の中学校部活動問題を先取りした活動と評価されます。

その後、「面瀬中学校部活動連絡協議会」は実際に中学校の部活動を支援する傍らで、運営の担い手となる総合型地域スポーツクラブの発足に向けて、面瀬地区体育振興会は、地区自治会、社会福祉協議会、小中学校と共に準備委員会を発足し、平成15年2月に「なんでもエンジョイ面瀬クラブ」(以降、「NEO」と呼ぶ)を設立しました。



2 取組内容

「面瀬中学校部活動連絡協議会」により現在も、NEOは、面瀬中学校に対して、外部指導者派遣による部活動支援を行っています。

協議会発足当初は、野球部・テニス部・バレーボール部・バスケットボール部・卓球部・剣道部・体操部・吹奏楽部と、文化活動部にまで外部支援者を派遣していました。しかしながら、現在は、生徒数の減少にともない廃止する部活動もあり、テニス部(男子)・バレーボール部(男子)・卓球部(男子・女子)を支援するに留まっています。また、東日本大震災による甚大な被害も相まって、子どもの数の減少だけでなく、適当な指導者も人材が減少していることも派遣する部活数減の要因として挙げられます。

クラブとしては、外部指導員として、

- ①「面瀬中学校部活動連絡協議会」の支援方針に賛同できること
- ②NEOの会員であること
- ③近隣住民であること
- ④ボランティアでの活動を了承してもらうこと

を条件としています。これは継続的に活動してもらうための条件(特に③)でもありますが、これらの条件に見合った指導員を探すのは難しくなっています。人口減少が進む中、この活動をどのように継続していくのが、今後の課題となると思われます。

3 中学校教員・保護者からも好評を得る外部指導者派遣

面瀬中学校の教頭先生や部活動顧問の先生からは「NEOの指導者は信頼できる」「先生の負担が軽くなっている」など、好意的なコメントが多く聞かれました。さらに先生からは「前の赴任先でも外部指導者が部活動に入ることはあったが、勝利至上主義など問題も多かった」とのこともあったそうですが、現在のNEOの指導に関しては、今のところ、クレームが無いそうです。これは支援方針を守り、派遣指導者の人選を見極めている現在のNEO理事長の藤田敏秋氏とクラブマネジャーの小池良光氏の力量と思われる。また子どもたちからは、「楽しい」「コーチして欲しいことの相談がし易い」とのコメントがあがっているそうです。これはNEOの外部指導に対する期待の表れであり、必要とされている証拠とも言えます。



4 新任の先生・PTA等へ説明・交流会を実施 →地域に近いクラブへ

面瀬中学校は、「面瀬中学校部活動連絡協議会」の理解を得るために、新任の先生に対しては、6月までに協議会について説明を行い、PTAに対してもPTA集会などで説明を行っています。また、毎年11月にはNEO、中学校、父兄が合同で参加する交流会も開催され、NEOは地域により身近な存在として知られています。地道ですが、こうした活動の積み重ねにより地域の理解を得ることが、日頃の部活動支援をやりやすくしている要因と思われます。

5 今後の課題

外部指導者派遣を継続させるためには、父兄の協力を得ることや、指導協力者を増やす等、以下の課題が考えられます。

- 運動部の低迷を活発化させるため、及び種目の減少の対策として一部の運動部に偏った入部希望者を分散化させること。
- 中学生の部活動の目的、趣旨等を確認し、勝利至上主義にならない支援方針を確立すること。
- 現在、指導協力者は全員勤め人が夜間の指導支援を実施、生徒を夜間会場まで送迎するには父兄の協力が不可欠なため、その協力・了承を得るための説明ができること。
- 元運動部の経験者の発掘、指導協力者の参加要請方法/手続きを確立すること。

6 外部指導者派遣には人材の確保と中学校との コミュニケーションが重要

NEOの中学校部活動支援を見ると、以下の2点が重要であるように感じます。

- 派遣指導者を人選できる人材がいること。
(NEOの場合、藤田理事長と小池マネジャー)
- 中学校(PTAも含めて)の了承を得ること。
(NEOの場合、中学校からの部活動指導の支援に関する要望・アプローチもあった。)

部活動支援を考える場合は“中学校の要望をヒアリングすること”がスタートだと思います。

(宮城県クラブアドバイザー 佐藤 浩一)



クラブプロフィール

- クラブ名** NPO法人なんでもエンジョイ面瀬クラブ
- 設立年月日** 平成15年2月23日(NPO法人取得 平成15年12月24日)
- 所在地** 宮城県気仙沼市面瀬地区
- 運営** 会員数 141名(平成30年6月末現在)、予算規模163万円(平成30年度)
- 有給職員** 0名
- 特徴** 気仙沼市面瀬地区(対象エリア人口:約6,400人)で、地域社会の活性化と地域の教育力の増進を目的に、様々なスポーツ活動・文化活動・レクリエーション活動を提供し、元気で健康な連帯感に満ちた「面瀬の地域づくり」を進めている。
- 連絡先** 〒988-0153 宮城県気仙沼市松崎面瀬47-36
TEL 0226-25-9272 FAX 0226-25-9272
E-Mail neo.club2003@gmail.com
URL <http://omose-neoclub.com>



ソフトテニス部



バレーボール部



卓球部



特別企画

学校運動部活動と連携するクラブ



DREAM火流 ＜熊本県八代市＞



中学校運動部活動を巡っては、少子化による生徒の減少、それに伴う教員数の減少、専門的指導力を持つ教員の不足等により生徒のニーズに応じた部活動自体が成り立たなくなる現状があります。

このような中、平成30年3月にスポーツ庁において「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」が策定され、ガイドラインの中で総合型クラブと中学校運動部活動の連携が期待されています。

そこで、今回は、学校運動部活動と連携するクラブの取組を紹介します。

1 クラブ概要

設立理由

校区の現状として、少子高齢化が進み子どもたちは塾や習い事などで、外で遊ばなくなり、保護者も仕事やパートなどで自分の趣味の時間すら作れなくなっているため。

設立目的

幼児から中高齢者までのすべての人を対象に、スポーツ教室の開催・トップアスリートの育成や、レクリエーションスポーツの普及・振興を通じて、誰もがいつでも気軽にスポーツを楽しむ事ができる環境を築きあげながら、地域コミュニティの再生を目指しています。

具体的な活動

スポーツ活動を通じた、次世代を担う子どもたちの心身の健全なる育成と、海と山に囲まれた温泉街で、歴史と文化多き日奈久校区の活性化を担うクラブとして、イベントや伝統的な行事ごとに積極的に参画し、地域おこしに貢献する活動を展開しています。

クラブ理念

スポーツを通して地域住民からアスリートまで、誰でも気軽に参加できるコミュニケーション重視のクラブをつくり、夢を語り合い活力ある地域づくりを目指します。



2 クラブ設立準備時から学校・保護者等で検討会議を実施

学校運動部活動の指導者不足などにより、休部する競技が増加傾向にあったので、当時の保護者から放課後の時間帯でのスポーツ活動を要望する声を受けて、クラブの課題でもあった活動拠点場所の確保に向け、小中学校長と設立準備委員長(校区長)がキーパーソンとなり、学校・クラブ・保護者・地域代表で検討会議を数回実施し、学校依存型の運動部活動から地域住民による地域協働型のクラブ活動への移行を目指しました。

3 取組内容

当初は、陸上・野球・サッカー・卓球・バドミントンの5種目を計画し、地元の指導者もそれぞれ確保しましたが、結果的に陸上競技(部活動のまま)を除く屋外競技(野球・サッカー)については、運動部活動の受け皿として部活動の時間帯にスクールとして活動することとなりました。

また、室内競技は卓球とバドミントンがあり、小学校側より部活動として現状のままの時間帯で、活動をするとの説明だったので、クラブのスクール活動は指導者の実情もあり、時間外(19:30~21:00)の設定となり希望者が少人数であったので、当面の間は一般のサークル活動と合同で行う様に決定しました。

また、活動場所・時間帯など、時期によって変わる可能性があるので、その都度臨機応変な対応処置を講じ、子どもたちが楽しんで運動できるようにスクール活動を展開しています。

クラブの設立当初は、小学校の児童数が100名前後で、運動部活動は4年生以上からとなっていたので、クラブが低学年からスポーツ活動をさせることに学校側の抵抗がありましたが、小規模校なので、総合型クラブのメリットである「複数の種目を児童が選択できること」が、保護者や地域代表者などに印象強く伝わったようです。

4 複数種目を行うことで、スポーツの魅力を体験

保護者側は当初、単一種目毎に学校運動部活動として、クラブと学校の連携の強い要望がありました。2~3年後は総合型クラブの理念を理解してクラブ活動のサポートを積極的にして頂いています。また、学校側は、運動部活動における教職員の負担軽減や、クラブが関わることで地域との新たな連携体制を図ることにつながりました。

そして、クラブ側は、子どもたちに複数種目を体験させることで、個人の運動能力のトータルバランスを考慮した指導方針を確立でき、子どもたちは、スポーツの選択肢が増えてスポーツの魅力を体験できています。



5 学校からはクラブと連絡調整に関する支援も

その他にも、学校とクラブは以下の連携があります。

- 夏休み期間のプール監視員の依頼がクラブ側にあり、クラブマネージャーが対応。
- 雨天時などでグラウンドが使用できない時、学校の校内放送で子ども達へのスクール中止の連絡。(急用時の対応もお願いする。)
- 学校行事などで授業時間が変更になった場合や、振替休日などの情報共有。
※この情報をクラブ側に連絡して頂いているので、それに合わせたタイムスケジュールで活動できる。
- グラウンドが小中学校共同の為、特に中学校の各種大会や練習試合などでグラウンドが使用できない時、中学校の教職員の方から連絡を頂く。

6 児童・生徒がより良いスポーツライフを送るために

小中学校一貫指導に関して、小学校とグラウンドを共有している中学校側は、現在活動している野球・サッカー・ソフトテニスの3種目は、現状のまま学校運動部活動として活動を行うので、クラブが提案するスクール活動には参加できないとの事でしたが、幾度となく校長先生や部活担当顧問の先生方と協議を重ねて、今後は技術指導面の情報交換や合同練習会の開催などを行いながら、中学校運動部活動とクラブスクール活動との連携を模索することとなりました。

学校運動部活動と社会体育の連携(融合)に関しては、複数年の移行期間を設けて、狙いを定めて児童・生徒の運動環境を整備し、より良いスポーツライフが送れるように地域全体で取り組むことが大切だと思います。

また、各学校とクラブと地域の信頼関係(人・物・場所・情報の共有など)を、時間がかかっても築き上げることが重要だと感じます。

(熊本県クラブアドバイザー 太田黒 尚子)



クラブプロフィール

設立年月日 平成25年3月24日

所在地 熊本県八代市日奈久校区

運営 会員数70名(平成30年3月末現在)、予算規模130万円程度(平成30年度)

有給職員 0名

特徴 夢を語り合えるクラブづくりを目指し、レクリエーション活動や多種多様な事業を通して、会員相互がリスペクトしあう事で地域の活性化に繋げる。また、学校依存型の運動部活動と、地域住民による地域協働型のクラブ活動の良さを融合させて、小中学生年代におけるスポーツの一貫指導や、より豊かなスポーツライフをクラブがサポートし、地域における生涯スポーツの確立を目指している。

連絡先 TEL 090-8668-9278 FAX 0965-38-1573
E-Mail dream196068@yahoo.co.jp



サッカーのルールを学ぶ



体育館で、社会人と共に子ども達も卓球を学ぶ



日奈久小中学校グラウンドにて、土曜日に小中学生合同の野球練習会を実施





連載

みんなで盛り上げよう！ オリンピック・ムーブメント

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント事例紹介



岩手県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 ＜岩手県盛岡市＞



オリンピック・パラリンピック・ムーブメントとは、オリンピックの精神(オリンピズム)に従って、スポーツを通じて平和でよりよい世界の実現を目指す活動のことで、2020年に向けて国内でもさまざまな活動が行われています。

今回は、岩手県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会が実施しているオリンピック・パラリンピック・ムーブメント関連の取り組みを紹介します。

平成29年度スポーツボランティア研修会 兼 第3回岩手県総合型地域スポーツクラブ運営研修会

実施日時	平成30年3月3日(金)
実施会場	滝沢市総合公園体育館
参加者数	25人
主催	岩手県体育協会 岩手県広域スポーツセンター 岩手県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会



1 企画経緯

ビッグイベントに向けスポーツボランティアを強化

岩手県広域スポーツセンターでは、国体、ラグビーワールドカップ2019、東京オリンピック・パラリンピック競技大会(東京2020大会)等スポーツのビッグイベントを見据え、平成26年にスポーツボランティアシステムを構築し、総合型クラブを中心に、「希望郷いわて国体・いわて大会」のPR(プレ大会でのパンフレット配布、マスコットキャラクターの着ぐるみを着用して応援等)を行いました。本大会でも登録者には運営ボランティア等として活躍していただき、国体の成功と、レガシーとして今後につながる成果を残すことができました。



しかし、国体終了後は活動の場が減り、ボランティア熱が冷めかけておりましたが、ラグビーワールドカップ2019、東京2020大会に向けて、スポーツボランティアを活性化させるべく、総合型クラブ運営研修会ではありましたが、クラブ関係者だけでなく、ボランティア登録者や学生など広く県民にも受講していただけるよう、スポーツボランティアをメインタイトルとして研修会を実施することになりました。

障がい者スポーツへの理解

昨今、総合型地域スポーツクラブでも障がい者の受け入れが求められており、パラリンピック等障がい者スポーツも盛んに行われ、障がいへの理解も高まっているため、健常者のスポーツだけに限らず、障がい者のスポーツにも焦点を当てることとしました。そこで、岩手県障がい者スポーツ協会を通じて、長野県障がい者福祉センター「サンアップル」から講師を紹介していただき、障がい者スポーツへの取り組み、ボランティアの必要性について講義していただきました。

参画プログラムとして実施した経緯

当研修会を参画プログラムとすることで、県として、総合型クラブとしても東京2020大会を応援していることを県民にも理解していただけるのではないかと考えました。この活動自体、知らない方や気付かない方も今はいると思いますが、地道な活動が今後の動きにつながるため、今後も継続し、スポーツに対する機運をさらに高め、本県のスポーツ振興、総合型クラブの発展にもつなげていきたいと考えました。



2 実施内容

【ラグビーワールドカップ2019の説明】

「ラグビーワールドカップ2019の釜石開催に係る取り組みについて」

松崎 雄一 氏（岩手県文化スポーツ部ラグビーワールドカップ2019推進課 総務企画担当課長）

《内容・趣旨》

大会概要、開催に向けた取り組み、経済効果、ボランティアの種類・内容・募集スケジュール、県民が実際に行えるボランティアの内容等説明していただき、研修会に参加された方々がさらに興味を持ち、「できそう」、「やってみよう」と思えるような内容でした。



【ボランティアについて情報提供】

「『東京2020大会に向けたボランティアシンポジウム～ボランティアの本質を探る～』の伝達」

中島 昭博 氏（岩手県文化スポーツ部スポーツ振興課 上席スポーツ振興専門員）

《内容・趣旨》

東京で行われたボランティアシンポジウムの内容について、ボランティアを受けた側の視点、ボランティアをする側の視点からの意見等、情報提供をしていただきました。また、「東京ボランティアナビ」に掲載された、岩手県広域スポーツセンターの取り組みや、スポーツボランティアシステムについても紹介していただきました。



【スポーツボランティアの活動紹介】

「スポーツボランティアの魅力とは ～スポーツを地域住民の力で支えよう～」

齋藤 道子 氏（NPO法人うつくしまスポーツルーターズ 副理事長兼事務局長）

《内容・趣旨》

スポーツボランティアに関わるきっかけ、活動内容の紹介、東京2020大会に向けた取り組み、スポーツボランティアに参加してもらおう工夫等説明していただきました。同じ東北の活動として身近に感じ、とても参考になる内容でした。



【障がい者スポーツのボランティア】

「障がい者スポーツボランティアの実際について」

三浦 雄高 氏（長野県障がい者福祉センター「サンアップル」 スポーツ課主任指導員）

《内容・趣旨》

障がい者スポーツについて、活動紹介、障がい者スポーツでのボランティアの必要性、ボランティアに関わる上でのポイント等、理解しているようで理解できていなかったことが多く、改めて障がい者スポーツとそれに関わるボランティアへの関心が高まる内容でした。



3 参加者・運営側の声

参加者の声(実施後) ※アンケートから

- ・「スポーツボランティアとはどういうものか学ぶことができた」
- ・「ラグビーワールドカップ直前のタイムリーな内容で、さらに大会を盛り上げていきたいと思った」
- ・「行政だけでなく、民間の団体が活動していること、またその内容を知ることができて参考になった」
- ・「今後のボランティア活動に活かしていきたい」

上記のような感想をいただき、今回の内容をきっかけに、スポーツボランティアに対する意識が変わり、関わっていこうと思える内容になったのではないかと思います。

運営者の声(実施後)

各団体とも、ボランティアを募ることが難しいという課題があり、オリジナルグッズやTシャツなどの支給品を報償とするなど、試行錯誤をしてボランティアを集めていることが分かりました。しかし、総合型クラブでグッズ作成・無料配布となると厳しいところがあるため“報償”といった意味では集客力に欠ける部分があると思いました。ただ、「人材が足りない」というクラブの課題を解決するためにも、運営ボランティアを募ることが大事であると考えます。こうした運営ボランティアが活動の幅を広げてクラブを支え、将来的にビッグイベントを支える人になっていくと思いますので、地域から、クラブから、ボランティアを育てていくことが大事であると改めて感じました。

今回、クラブ関係者以外の方々にもご参加いただき、スポーツボランティア、総合型クラブについてもご理解いただけたと思いますので、今後も県民を巻き込んだ研修会を開催できればと思います。

4 今後の展望

地域が一体となり、「おもてなし」を大切に

スポーツボランティアは今後も需要が増えてくると思いますが、全員が関われるわけではありません。しかし、会場周辺のゴミ拾い、訪れた方々にクラブのプログラムに参加してもらうなど、自分たちでできる“お・も・て・な・し”があると思います。そして、何よりスポーツイベントを盛り上げることが一番だと思いますので、関連イベントの開催、地元選手の応援、パブリックビューイングなど、地域が一体となって関わっていければと思います。

来年、岩手県ではラグビーワールドカップが開催されますが、地元でもボランティアに関わる方、観戦できる方は多くありません。その分、総合型クラブが地域を巻き込んで、みんなが関わり、楽しめる環境をつくっていき、復興五輪でもある東京2020大会に向けても、岩手から盛り上げていきたいと思っています。

(岩手県クラブアドバイザー 小原 有晴)



■参画プログラムとは■

東京2020大会は、大会ビジョンと3つの基本コンセプトが掲げられています。

大会ビジョン：「スポーツには世界と未来を変える力がある」

コンセプト：「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」

この大会ビジョンとコンセプトを基に、日本国民の方々が、東京2020大会に参画(アクション)し、そのアクションの成果を未来につなげていく(レガシー)ことを目指し「アクション&レガシープラン2016」を策定しました。そして、このプランを達成するために、様々な組織・団体がオリンピック・パラリンピックとつながりを持ちながら、大会に向けた参画・機運醸成等に向けた「アクション」を実施できる仕組みが「参画プログラム」です。

「参画プログラム」には「公認プログラム」と「応援プログラム」があり、地域の非営利団体等を対象とし、より多くの方々が参画できることを目指すものが「応援プログラム」です。

応援プログラムの具体的な申請方法等については、[コチラ](#)



【東京2020応援マーク】

協議会 プロフィール

設立年月日 平成21年1月22日

所在地 岩手県盛岡市

特徴 本協議会は(公財)岩手県体育協会内に事務局があり、平成28年度からは岩手県広域スポーツセンター事務局も体協内に設置されたことで、総合型クラブへの支援体制が充実されました。協議会事業として「突撃！隣の総合型クラブ」(クラブ視察、スポーツ体験、情報交換等)、「プロジェクト事業」(各種勉強会、プログラム開発、マネジャー交流会等)の開催の他、岩手県や広域スポーツセンター、大学や企業と連携して各種研修会等も実施するなど、総合型クラブの支援に取り組んでいます。

連絡先 〒020-0133 岩手県盛岡市青山4-13-30

TEL 019-648-0400 FAX 019-648-1600

E-Mail yusei-o@iwate-sports.or.jp

Facebook <https://www.facebook.com/iwate.sportsclub/>





連載

みんなで盛り上げよう！ オリンピック・ムーブメント

オリンピック・ムーブメント事例紹介



NPO法人スポーツアカデミー ＜千葉県旭市＞



オリンピック・パラリンピック・ムーブメントとは、オリンピックの精神(オリンピズム)に従って、スポーツを通じて平和でよりよい世界の実現を目指す活動のことです。2020年に向けて国内でもさまざまな活動が行われています。

今回はNPO法人スポーツアカデミーが実施しているオリンピック・ムーブメント関連の取り組みを紹介します。

スポーツで元気いっぱい親子体験イベント サッカー体験教室

実施日時	平成30年10月8日(月・祝) 体育の日
実施会場	旭市総合体育館
参加者数	一般60名・小学生85名
主催	千葉県教育委員会
主管	NPO法人スポーツアカデミー

1

企画経緯

「東京2020応援プログラム(スポーツ・健康)」としてイベント実施

「スポーツで元気いっぱい親子体験イベント」は、千葉県教育委員会が毎年10月に設定している「スポーツ立県ちば推進月間」に、総合型地域スポーツクラブが地元の小学校と連携し、親子のふれあいを通してスポーツに親しむきっかけとなる機会を設け、スポーツの推進を図ることを目的とするイベントです。スポーツアカデミーではこのイベントを毎年開催し、今年はサッカー体験教室を行うことにしました。

さらに今回は、このイベントを通じて、スポーツの楽しさ・達成感・感動などを親子で経験することで、よりスポーツが身近に感じられ、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピック



競技大会(東京2020大会)への期待が高まるのではないかと、また、このイベントが地域の皆さんのスポーツするきっかけとなり、スポーツのある活きた社会が醸成されることが、東京2020大会の盛り上げに繋がるのではないかと考え、東京2020大会を応援する「東京2020応援プログラム(スポーツ・健康)」のクラブのイベント第1弾として開催することにしました。



スポーツで元気いっぱい 親子体験イベント

サッカー体験教室

10月8日(月) 祝日 主催 千葉県教育委員会
協力 スポーツアカデミー

親子体験イベント「サッカー教室」

日時 平成30年10月8日(月) 祝日 体育館のロビー
09時30分～11時00分

会場 旭市総合体育館

持参物 運動のできる服装・室内シューズ・飲み物
タオル・着替え等・ボール(持ち物の可)

内容 ○要時9時30分開場
○親子サッカー教室
○全面でサッカー1対1対戦
○終了12時

参加費 無料

備考 *下記参加申込書を入力し、9月25日(火)までに
送付ください。
*参加の申し込みは先着順となります。

お問い合わせ先 NPO法人スポーツアカデミー
〒470-0001 千葉県旭市南町1-1-1
0476-88-0000





*本イベントは、東京2020応援プログラム(スポーツ・健康)として実施します。

----- キリトリ -----

保護者氏名 _____

①お子様氏名 _____ 男・女 _____ 学校 _____ 小学校 _____ 年生

②お子様氏名 _____ 男・女 _____ 学校 _____ 小学校 _____ 年生

連絡先 ① _____ ② _____

2 実施内容

【東京2020応援プログラムとして】

- 東京2020大会への興味・関心を持っていただくように、開会式においてサッカーに関する歴史を話題にしました。
- 東京2020大会にボランティアとして参加する意義をお伝えしました。

【親子でサッカー体験教室】

- サッカーの基礎練習(運ぶ・止める・蹴る)
- 5 vs 5 のミニゲーム(大人も子どもも全員で参加)。



3 参加者・運営側の声

参加者の声(実施後)※アンケートから

- 思い通りにボールをコントロール出来なかった。
- いっぱい体を動かして(走れて)楽しかった。
- 最後のミニゲームで得点が出来て嬉しかった。
- もっとサッカーをやってみたいと思うようになった。
- こんなに運動をしたのは久しぶりで疲れました。
- 足でボールを扱うことが、こんなに難しいとは思わなかった。

運営者の声(実施後)

ご参加いただいた方が楽しんでいただける様な内容を考え、ご提供させていただきました。サッカーの難しさや楽しさを体験されて、もっとサッカーがやりたい！と思ってもらえたら嬉しく思います。

4 今後の展望

東京2020応援プログラムを利用することで、クラブのPRに

イベントの開会式で、東京2020大会にボランティアとして参加する意義を話した結果、参加者の皆さんから東京2020大会のボランティアに参加するための手続きなどの質問をいただいたことから、東京2020大会に関心を持っていただく、きっかけになったのではないかと思います。また、東京2020応援プログラムとして実施したことで、クラブが「東京2020大会を応援しているクラブ」としてPRできたと思います。しかし、東京2020応援プログラムとしての事前告知をチラシ以外には行わなかったことや、イベントの内容が東京2020大会に特化したものではなかったことで、「東京2020大会を旭市から応援しよう」というきっかけとしては物足りなかったかもしれません。千葉県内でも一部の競技が行われるので、今後も東京2020大会を盛り上げるために、クラブの活動やイベントなどで東京2020大会に興味・関心を持ってもらえるような活動や、ボランティアへの参加の呼びかけなどを継続して行っていきたいと思っています。

(NPO法人スポーツアカデミー 広報担当 辻秀憲)



■参画プログラムとは■

東京2020大会は、大会ビジョンと3つの基本コンセプトが掲げられています。

大会ビジョン：「スポーツには世界と未来を変える力がある」

コンセプト：「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」

この大会ビジョンとコンセプトを基に、日本国民の方々が、東京2020大会に参画(アクション)し、そのアクションの成果を未来につなげていく(レガシー)ことを目指し「アクション&レガシープラン2016」を策定しました。そして、このプランを達成するために、様々な組織・団体がオリンピック・パラリンピックとつながりを持ちながら、大会に向けた参画・機運醸成等に向けた「アクション」を実施できる仕組みが「参画プログラム」です。

「参画プログラム」には「公認プログラム」と「応援プログラム」があり、地域の非営利団体等を対象とし、より多くの方々が参画できることを目指すものが「応援プログラム」です。

応援プログラムの具体的な申請方法等については、[コチラ](#)



【東京2020応援マーク】

クラブ プロフィール

設立年月日 平成17年7月1日

所在地 千葉県旭市

特徴 小・中学生を対象に、サッカー・バレーボール・陸上競技・体操の4種目を実施し、競技力を高める選手コースと、楽しく取り組むサークルコースで活動をしています。totoの助成により、各種スポーツ事業の展開・クラブハウスの設置・マイクロバスの所有といった、ソフトとハードの両面で充実させることができています。また平成29年度より、毎月様々な競技に取り組む「チャレンジスポーツ教室」を実施し、各競技の基本技術の習得はもちろんのこと、気軽にスポーツの楽しさを体験する良い機会として参加していただいています。一方、地域交流(サポート)事業として、保育園でのサッカー教室、デイケアセンターでの軽スポーツの実施などにも取り組んでいます。今後も総合型地域スポーツクラブとして、多くの人にスポーツを行う環境を提供し、一人一人がスポーツに親しむことのできる社会の実現、地域コミュニティづくりの推進による社会生活の実現に取り組んでいきます。

連絡先 〒289-2504 千葉県旭市ニ5863-9 アカデミークラブハウス
TEL 0479-62-8870 FAX 0479-74-7270
E-Mail info@spo-aca.jp
URL <http://www.spo-aca.jp/>





助成金情報

ヨネックススポーツ振興財団 2019年度助成金

【実施団体】（公財）ヨネックススポーツ振興財団

助成金交付対象は、青少年スポーツの振興に関する事業を積極的に行い、奨励または自ら行い、かつその活動を3年以上継続して実施している団体とします。

【申込期間】

前期 対象期間：2019年4月～9月および2019年度の年間を通じた事業

申請期限：2018年12月20日（当日消印有効）

交付決定：2019年2月28日（予定）

後期 対象期間：2019年10月～2020年3月の事業

申請期限：2019年6月20日（当日消印有効）

交付決定：2019年8月31日（予定）

様式をダウンロードし必要事項を記入のうえ、郵送します。

<http://www.yonexsports-f.or.jp/joseikin.html>

2019年度スポーツ普及奨励助成事業

【実施団体】（公財）スポーツ安全協会

法人格を有するスポーツ・レクリエーション等生涯スポーツ関係団体（営利法人を除く。）が主催する、全国・ブロック単位で行われるスポーツ・レクリエーション大会等の開催費用の一部を助成するものです。

【申込期間】 2019年1月18日（金）必着

申請書をダウンロードし必要事項を記入のうえ、郵送します。

<https://www.sportsanzen.org/index/Info/info-0928.html>

ノエビアグリーン財団 2018年度助成事業

【実施団体】（公財）ノエビアグリーン財団

日本を代表するジュニアスポーツ選手の育成、また、心身ともに健全な青少年の育成に寄与することを目的として、一般公募による助成活動を実施しています。

【申込期間】 2018年12月3日（月）～2019年2月28日（木）

団体と個人で応募できます。電子申請サポートシステムにより応募を受け付けます。

<https://www.noevirgreen.or.jp/grants/index.htm>





お知らせ

イベント情報

生涯スポーツ・体力づくり全国会議2019開催

本会議では、スポーツ立国の実現に向けて、スポーツに関連する多様な人々が一堂に会し、研究協議や意見交換を行い、今後のスポーツ推進方策について検討します。

主催	スポーツ庁／生涯スポーツ・体力づくり全国会議実行委員会		
日時	平成31年2月1日(金) 10:00～		
会場	JRホテルクレメント徳島		
参加費等	参加費	1人	2,000円(資料代込み)
	弁当代	1人	1,200円(希望者のみ)
	情報交換会会費	1人	5,000円(希望者のみ)
申込締切	12月21日(金)		

開催概要はこちらから

<https://www.japan-sports.or.jp/about/event/zennkokukaigi/tabid200.html>

参加申込はこちらから

<https://req.qubo.jp/lifelongsport19/form/entry>

幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム普及講習会開催

日本スポーツ協会(日本スポーツ少年団)が平成26年度に作成した、幼児及びその保護者等を対象にした活動プログラム「幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム」の効果的な活用法を周知することを目的に、地域のスポーツ少年団関係者等を対象とした講習会を開催します。

開催概要はこちらから

<http://www.japan-sports.or.jp/club/tabid1061.html>

平成30年度公認スポーツ指導者競技別研修会

「グッドコーチング・スキルアップ研修」

スポーツの価値やスポーツの未来への責任を自覚し、プレーヤーズセンタードのもと、スポーツ活動現場において指導対象者やアントラージュとのより良い関係を構築するとともに、その対象者や状況等に応じた知識・技能を活用できる実践力を高めることを目指し、研修会を実施します。

開催概要・参加申込はこちらから

<https://www.japan-sports.or.jp/coach/tabid241.html>



平成30年度生涯スポーツ功労者が決定しました！

生涯スポーツ功労者表彰は、国が地域または職域におけるスポーツの健全な普及および発展に貢献し、地域におけるスポーツ振興に顕著な成果をあげたスポーツ関係者を表彰するものです。

今年度は生涯スポーツ功労者158名、生涯スポーツ優良団体114団体が決定され、日本スポーツ協会からは総合型地域スポーツクラブ育成指導者として9名を文部科学省へ推薦し、「生涯スポーツ功労者」として決定されました。

生涯スポーツ功労者一覧については以下のURLを参照ください。

<https://www.japan-sports.or.jp/news/tabid92.html?itemid=3845>

ラグビーワールドカップ2019™日本大会情報

来年、アジアで初、ラグビー伝統国以外で初となるラグビーワールドカップが、この日本で開催されます。世界最高峰のラグビーをぜひお楽しみください。

開催期間	2019年9月20日(金)～11月2日(土)
参加チーム	20チーム 前回大会成績によって出場権を獲得しているチーム:12チーム 予選によって出場権を獲得するチーム:8チーム
試合形式	プール戦 5チーム×4プール(プール内総当たり戦):40試合 決勝トーナメント 準々決勝/準決勝/3位決定戦/決勝:8試合
試合会場	日本全国12会場
開催都市	札幌市、岩手県・釜石市、埼玉県・熊谷市、東京都、神奈川県・横浜市、静岡県、愛知県・豊田市、大阪府・東大阪市、神戸市、福岡県・福岡市、熊本県・熊本市、大分県

大会の詳細はこちら

<https://www.rugbyworldcup.com/>

チケットの情報はこちら

<https://tickets.rugbyworldcup.com>

